

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名	湘南医療大学
所 属	薬学部医療薬学科
名 前	石田 洋一
作成日	2025 年 5 月 14 日

1. 教育の責任

私は、主に薬学部の1～3年次の学生を対象にして、講義では、薬学生物基礎(入学前教育、必修・選択の区別なし)、生物系基礎科学(1年前期、必修)、生化学Ⅰ(1年後期、必修)、生化学Ⅱ(2年前期、必修)、生化学Ⅲ(2年後期、必修)、アドバンスド生物科学(3年前期、選択)、および生化学Ⅳ(3年後期、必修)を、また、実習では、生物系実習(1年後期、必修)および生化学実習(2年前期、必修)を担当している。保健医療学部においても、生化学(1年後期、選択)を担当している。概ね1、2年次の低学年を中心に、薬学における基礎学力の養成に携わっている。本学薬学部に入ってくる学生の大部分は、高校時には生物基礎のみを履修しており、生物学は履修しておらず、さらに、受験科目としての学修もしていないため、基礎科目として生物学・生化学を初歩から教育する必要がある。生物学・生化学は、薬学において非常に重要な薬理学や薬物治療学を学ぶ上での基礎となっていることから、本学が目標とする「臨床に強い薬剤師」を育てる上で、基礎と臨床をうまく橋渡しする重要な責務を担っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の理念は、端的にいうと「学生の自主性を尊重する」である。すべての学びは、主体性をもって行われることによって、学生自身の人生が豊かなものになると考える。学生に無理やり勉強させるのは、すべての学生に対して一律に強制力を働かせるだけで良いという点で安易な方法であるのに対し、学生から自主性を引き出すのは、一人一人が違っている学生の個性に目を向けないといけない点で非常に難しい。さらに、人間が最も能力を発揮するのは、人からやらされている状態ではなく、自分の興味にしたがって、自分で勝手に学んでいる状態である。私は、担当している科目に対して、強制力を働かせるのではなく、学問の面白さに目覚めて、学生が勝手に勉強し、自身で勝手に学んでいくように働きかけている。低学力層に属する学生のほとんどは、勉強に対する自身のモチベーションの低さに原因を帰することが可能で、モチベーションの低さというのは、要は自主性の欠如である。ヒトを種として現す「ホモ・サピエンス」は、叡智を求めるものという意であるように、学ぶことが存在そのものであることから、すべての学生は、元来「学ぶことが好き」であり、それを引き出してくれるものと期待している。

2) 理念をもつに至った背景

私は、これまでの人生で、誰からも「勉強しろ」といわれた経験がなく、勝手に勉強してきた。もし逆に「勉強しろ」と強制されたら、きっと反発して勉強が嫌いになって

いたと強く感じる。本学に入学してくる多くの学生は、これまでさんざん親や教師などから、「勉強しろ」と言われ続けてきたようで、そう言われ続けているにもかかわらず、勉強せずに成績がいつまで経っても向上しないのは、反発しているのと同時に、本来学問そのものに存在する「面白さ」を伝えてくれる人と出逢ってこなかったことが大きいのではないかと考えている。そこで私は、「勉強しろ」とはできるだけいわずに、「勉強は面白いよ」、「生物学・生化学は面白いよ」、「これまで知らなかった新しいことを知るの面白いよ」、「新しいことを知るの、自分の人生を豊かにしてくれるよ」と伝える方が、学生の目が輝くことが多い経験から、上のような理念をもつに至った。

3. 教育の方法・戦略

本学では、薬学部全体から見ると、相対的に学力が高くない学生が入学してくるのが現状である。また、ほとんどの学生は、高校で化学は履修して受験科目として勉強してきたのに対して、生物は履修していない。したがって、入学時に基本的な生物の知識が圧倒的に不足している状況にある。そのような状況は、他大学の薬学部生も同様ではあると考えられるが、基礎学力の低さ、自発的な学びの不足や勉強に対するモチベーションの低さ、勉強の習慣化がなされていない状況、講義を聴講する上での集中力は、本学の方が深刻であるように感じる。これらの問題点を踏まえて、私は講義において、以下の方法を採用している。

- ・ 入学前教育で、学問とはやらされるものではなく、学問そのものが興味深いものであるので、勉強すれば面白くなることを強く伝えている。
- ・ 学生と教員の間には、相性で「合う」「合わない」というのは必ずあるので、その教員と合わないからといって、その学問まで嫌いにならないように、教員はとにかく、どの学問にも魅力があることを強調している。
- ・ 講義で用いる資料を事前に manaba 上で配布し、予習しやすくしている。
- ・ パワーポイントではなく、板書を行い、それを学生がノートに録るスタイルで講義を行っている。ただし、全体的な学力の幅が大きいことから、ノートを録る行為に満足するのではなく、理解することが最も重要で、資料は公開しているので無理にノートを録らないようにとも注意喚起を行っている。
- ・ その日行った講義を振り返る復習問題を配布
- ・ 講義の動画収録を行い、動画を manaba にアップすることによって、学生が講義の際に理解できなかった内容を自分で復習できるようにしている。
- ・ 配布した資料を勉強すれば良いのではなく、自分で教科書を読まないといけないように、教科書ベースの講義を実施している。
- ・ 学期内に 2 回の小テストを実施し、成績不良の学生に対して、チューターも交えた

指導を行なっている。

- ・ 小テスト前に、前年度の小テスト過去問を配布することにより、やらなければという意識を促している。
- ・ 小テスト後、課題として小テストの復習を課することにより、知識の定着化を図っている。
- ・ 小テストは難易度が高く、それを一生懸命勉強すれば、単位取得は実現できるように、定期試験は小テストよりも簡単にして、学生に対して、勉強すべきことが分かりやすくなるように配慮している。
- ・ 「臨床に強い薬剤師」を養成するために、基礎科目でありながら、臨床的な内容を盛り込んでいる。

4. 学習成果

授業評価によって、講義動画を **manaba** にアップしているのは非常に好評で、多くの学生が復習や理解不足の内容の確認など大いに活用しているようである。また、2 回の小テストの実施は、本試験でも類似問題が出題されることもあり、単位取得に大いに貢献している。傾向としては、最終的に単位取得に至らない学生は、小テストで 30 点未満(小テストのためにほとんど勉強していない)であり、小テストに対する取り組み方が最終的な単位取得に大きく影響している傾向がみられた。

5. 改善のための努力

現状では、改善が必要な項目は、以下の通りと考えている。

- ・ 板書
- ・ 低学力層の学力向上

学生の授業評価アンケートにより、板書の字が汚いという指摘がなされている。板書で講義を実施している以上ある程度は仕方ない面もあるが、簡潔にまとめて、板書の字数を少なくして、その分丁寧な板書を心がけるなどの改善を進める。

低学力層の学力向上については、一人の教員が低学力の学生個々に対応することはマンパワー的に現実的ではないので、全体的な学力向上を目指す中で、低学力層も一緒に引き上げる努力をする。具体的には、小テストの実施、小テスト実施に先立った過去問事前配布、小テストの復習、チューターとの連携である。

6. 今後の目標

最も大きな目標は、全体的な学力向上である。全体的な学力を向上させることによって、低学力層の学力の底辺も一緒に底上げされることが期待される。そのため、短期的な目標としては、学期中の2回の小テストの実施を引き続き行い、早期段階(1年次前期の5月段階)で学修面で問題を抱えている学生を捕捉すること、そして、その対応が重要であると考えられる。

実は、入学前教育の段階で、学修面で問題がある学生の捕捉はなされている。入学前教育の確認テストで成績不良の学生は、おしなべて前期の単位習得に至る確率は低いデータも得られているが、学部全体としての対応は全く不足している状況である。先にも記述した通り、成績不良の原因の大部分は、学生の自発的な「学ぶ意欲」の欠如である。そこで長期的な目標としては、個人でできることは限られるので、学部全体として、特に教務委員会が中心となって、入学後最初期の段階で、成績不良学生に対して、「勉強しろ」と押し付けるのではなく、学生一人ひとりの話に耳を傾け、チューターや保護者とも連携し、学生本人の人生が豊かになるように、そのためには、これから学生本人が自発的に勉強して、それぞれの学問が魅力あり、勉強すれば必ず面白くなっていくよと、繰り返す論ず姿勢がもっとも肝要であるとする。無理やりやらせる姿勢では、多くの学生を幸せな人生に導くこと難しいと考えられることから、自発性を養成するためのコーチング技術を教員は真摯かつ謙虚な姿勢で学ぶことが必要だと考える。

【添付資料】

- ・ シラバス
- ・ 講義資料(講義の事前配布レジュメ、復習問題など)
- ・ 講義動画
- ・ 小テスト
- ・ 学生アンケート